

9月

みんぱくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分

■展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんぱく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、
話題や内容は実に多彩。

どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

9日
(日曜日)

話者：関本照夫（国立民族学博物館 特任教授）

話題：インドネシアの市場と商人

会場：東南アジア休憩所

23日
(日曜日)

話者：上羽陽子（国立民族学博物館 助教）

話題：南アジアの衣装と文様表現

会場：南アジア展示場

30日
(日曜日)

話者：吉本 忍（国立民族学博物館 教授）

話題：東南アジアの織機と織物

会場：東南アジア展示場

1年間みんぱくに何度でも入館できる 「みんぱくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんぱくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。

(電話06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)

編集後記

日本中で昨年の震災の痛ましい惨事と多くの教訓を記憶にとどめようとする努力が続けられている。犠牲者への鎮魂と備えを怠ることへの戒めをこめ、記憶がうすれることに敏感すぎるほどの警鐘がならされつづけるのも当然のことだろう。しかし、どんな記憶であろうと忘却からのがれるのは容易ではない。まして、被災地から遠くにすみ、悲惨な経験を共有しないものにとっては。第二次世界大戦や原子爆弾の残した記憶も半世紀すぎた今日、世を超え多くの障壁にもかかわらず引き継がれてきたとはいえ、戦争のあったことさえ知らない世代の出現が現実となった。

東北の被災地ではかつて先人がのこした津波到達点の石碑や年中行事の口碑にこめられてきたメッセージを再評価しようとする動きがあるという。たしかにインターネットなど電子メディアで行きかう過剰な情報に必要な情報さえ埋没しそうな今、モノと生のコトバの伝える力も顧みる価値はあろう。しかしそれらの存在自体が忘れ去られぬ手立てはあるのだろうか。企画展「記憶をつなぐ——津波災害と文化遺産」からさきと何かを学べるはずだ。

(庄司博史)

●表紙：宮城県・戸倉波伝谷（とぐらはでんや）地区の戸倉神社でかつて使用されていた獅子頭。地震により破損した右耳を修復・補強し、企画展に展示される。

次号の予告

特集

数に操られる、数を操る（仮）

月刊みんぱく 2012年9月号

第36巻第9号通巻第420号 2012年9月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

電話 06-6876-2151

発行人 八杉佳穂

編集委員 庄司博史（編集長） 小川さやか 樫永真佐夫

久保正敏 菅瀬晶子 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一敏

制作・協力 財団法人 千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）

●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてできます。



みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

